

牧幸一郎家文書目録と目録作成について

1 牧家作成の牧猛家系図によれば、平作― 新八郎― 寅治郎― 猛― 幸雄(智子の夫)― 幸一郎(現当主)と続く家系図がみられる。本文書は智子氏のご努力によって目録化が実現したものである。父猛氏(明治 36 年生まれ)は須坂町役場に勤務されている。そのためもあってか史資料の収集には関心が深く、目録にもみられるように他にはみられない行政関係史料が保管されてきている。なお、本文書は牧智子氏により須坂市に寄贈された文書であることを付け加えておく。

2 本文書の最初期史料は、天文 8 年(1539)3 月「元重聞書 礼方古実一」に始まり文化期以降 1800 年代の文書が中心を占める。明治期以降大正昭和に至るまで華道・挿花(遠州流挿花)や謡曲に造詣が深く、その関係史料が頻繁に登場する。この分野における須坂地域の状況把握に役立つ史料として貴重であろう。昭和戦前期には特に謡曲に関する史料が多くなっている。

加えて、須坂町町会関係史料が大事に保管されていて貴重である。昭和 3 年～13 年に至る「須坂町要覧」(8 冊)を始めとして昭和 11 年の役場庶務規定、事務報告書(7～11 年綴り)、同 19 年の「須坂町常会資料」(15 年 1 号～19 年 43 号まで綴り)、同 20 年の「須坂町会会議録」などの史料がそれである。華道関連(雅号 貞洲齋牧一信)は E に分類し、目録に追記した。

3 これらの史料を『牧幸一郎家文書目録』として、目録を作成した。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「071」(71 番目)に位置づけ、史料番号は「071-A-1-1」から開始して、整理ラベルを貼付した。

文書目録の配置は、時系列を主としたが、後日搬入された史料もあり必ずしもそうなっていない。史料点数は以下のように 1,653 点を数える。

なお、1653 点の寄贈後、さらに平成 30 年 9 月に江戸期から昭和前期に出版された書籍・パンフレット・広告類 69 点を寄贈された。これを「F 書籍類」として目録を作成した。

記号	分類番号	史料番号	史料点数
A	江戸期	60	124
B	大正期	172	253
C	大正期	164	281
D I	昭和期 I	670	746
D II	昭和期 II	109	129
E	華道関連	98	120

F	書籍	38	69
	合計	1,311	1,722

4 史料目録の作成に当たっては史料活用の便を考慮して、次のようにした。

(1) 史料名は、原則として史料中に記載された表題を記したが、無表題史料には、次のように()をもちいて仮表題を作成して掲げた。

(請取書) (中牛馬会社関係書簡)

(2) 「記」・「覚」のみで内容無記載の史料については、次のように()内に内容説明を記載したものもある。

記(受取書) 証(秩禄公債証書譲受け)

(3) 請取など切手まがいの一紙史料は、便宜的に括って整理したものもある。その場合は、次のように一枚目の史料名を記し、他の史料については「外○点」などと略記した。備考欄には「便宜括り」と記載しておいた。

納品記録簿、外2点 覚(俊明社員一覧表)、外1枚

(4) 史料形態については、次のように略記した。

横(横帳)、横半(横半帳)、縦(縦帳)、紙(一紙)、
封(封書)、冊(冊子)、綴、束、など

5 本史料目録は、牧家のご理解とご協力を得て、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担して作成した。

浅沼彌吉・涌井二夫・大塚尚三・田子修一

(編さん担当:青木廣安・丸山文雄)

2016 年 7 月 20 日(2018 年 9 月 6 日追記 須坂市文書館)

須坂市誌編さん室